

## J. D. Salinger の初期の短編について (4)

小林 資 忠

(英米文学研究室)

### 0 . はじめに

前稿<sup>1)</sup>において, J. D. Salinger の初期の短編の中で, (B) *The Catcher in the Rye* (1951) の先駆けとなる作品2編, “I’m Crazy” (1945) と “Slight Rebellion off Madison” (1946) について, *The Catcher in the Rye* と比較しながら, その内容を検討した。本稿では, (C) 戦時下の人々を扱った作品8編のうち, 4編について, 同様な手順で登場人物の行動や考え方を考察してみよう。引用の最後の( )の中に頁数を示す。

### 1 . “The Hang of It” について

この短編は *Collier's* 向けの, 当時流行した, 結末にオチ (surprise ending) を持つ a short short story である。第1次世界大戦中の1917年に, Bobby Pettit は Grogan 軍曹をいつも悩ましていた。Bobby は軍隊の中で何をしても不器用で, いつも Grogan に怒鳴られてばかりいた。その度に「すぐに要領を覚えます」と同じ返答を繰り返し, 「いつか大佐になります」と希望を述べるのであった。やがて月日が経ち, Bobby は望み通り, イロクオイ駐屯地 (Fort Iroquois) の連隊長で大佐になっていた。さらに Bobby の息子である Harry も同じ隊に属しており, 見込みがないと怒鳴られながら, その同じ Grogan にしごかれているのである。親子二代に渡って, Grogan に手を焼かしている新兵にまつわるユーモアにあふれた物語である。

#### 1 . 1 . “The Hang of It” に見られる口語表現について

軍隊で, Bobby Pettit や Harry の訓練を担当した Grogan 軍曹の言葉に, 砕けた口語表現が主として用いられているので, その顕著なものを探ってみよう。

##### 1 . 1 . 1 . 軽蔑語法及び誇張表現

###### a) dumb (ばかな, まぬけな)

この語は Grogan 軍曹が Bobby に言及する時に, “dumb guy” としてしばしば使用されており, いつも失敗ばかりしている Bobby を Grogan が怒鳴り散らす時の常套句になっている。強調されて, 最上級としても2回使用されている。

(1) “Well, dumb guy,” greeted the sarge, “what’s the matter with you?” (22)

(2) “Pettit. I met lotsa dumb guys in my time,” related the sarge. (22)

( 3 ) “Pettit,” cooed the sarge. “You are ... without a doubt ... the dumbest ... the stupidest [=stupidest] ... the clumsiest gink I ever seen. ...” ( 22 )

b) nut ( ばか者 ; 変わり者 )

人をさげすむのに、人を物になぞらえて呼ぶことがあるが、この意味も「木の実、どんぐり」から派生している。

( 4 ) “... Are ya nuts, Pettit? Wutsa matter with ya? Ain'tcha got no brains?” ( 22 )

c) bud ( 仲間 , 相棒 )

この語は buddy と同じ意味で、通例、相手に対して親しみを込めて使用されることが多いが、状況によって、「おどかし、怒り」のニュアンス<sup>2)</sup>を含むこともある：“What's your name, Bud?” asked the sarge. ( 22 )

d) gink ( 人 , やつ ; 変わり者 , 嫌なやつ )

この語は20世紀初期に英国や米国ですでに使用されており、1950年代以前に軽蔑的な意味を含まない単なる「人」の意でも用いられている。<sup>3)</sup>

( 5 ) “You are ... without a doubt ... the dumbest ... the stupidest ... the clumsiest gink I ever seen. ...” ( 22 )

#### 1 . 1 . 2 . 間投詞 boy

この短編では、この語は Bobby が上司の Grogan 軍曹に述べた言葉の中にあり、脅威とか子供扱いされたという含みはなく、単なる驚き、感嘆、ショックなどを表す間投詞として用いられている。

( 6 ) “... Boy, I like the Army. Some day I'll be a colonel or something. No kidding.” ( 22 ) ( 「...本当に軍隊が好きなんです。いつか、大佐かなんかになってみせます。うそじゃありませんよ。」 )

#### 1 . 1 . 3 . 誓言・間投詞

次の発話の中の gee は Jesus/dʒi:zəs/ の「第一音節だけを残した婉曲語<sup>4)</sup>」で、登場人物の驚きや強い興味を表現する場合に用いられる。

( 7 ) “Gee,” said Pettit. “No kidding?” ( 22 ) ( 「へえっ、本当ですか。」とペティトは言った。 )

#### 1 . 1 . 4 . 2 重否定

この語法は「シェイクスピア時代までは自由に使われていたが、現代英語では卑俗なことば<sup>5)</sup>」に多く見られる。

( 8 ) “I ain't [=am not] runnin' no fifth grade. ... Ain'tcha [=Haven't you] got no brains?” ( 22 )

#### 1 . 1 . 5 . or something

この表現は代表的な余剰表現であり、この短編では、1回使用されているだけである。先行する発話をぼかしたり、強調するために用いられる。

( 9 ) “... Some day I'll be a colonel or something. No kidding.” ( 22 )

#### 1 . 1 . 6 . Eye Dialect

Salinger の作品にしばしば見られる “Wuddaya”=What do you, “Wudga”=What did you, “wuzza”=What's that などの表現はこの短編には現れない。次の表現は Grogan 軍曹が Bobby に間を置きながら、3回使用しているものである。

- (10) "... Wutsa [=What's the ] matter with ya? Ain'tcha [=Ain't you ] got no *brains*?"  
(22)

次の表現もすべて Grogan 軍曹が Bobby に述べた砕けた言い回しである。

- (11) "Pettit. I met lotsa [=lots of] dumb guys in my time," related the sarge. (22)  
(12) "Pettit, you're takin' twenny [=twenty] years offa [=off of] my life. ..." (22)  
(13) "... I'll akchally [=actually] kill ya, Pettit. ... *You hear me?* I hatecha [=hate you ♪]" (22)

### 1.1.7. 数の不一致

一般に、方言や砕けた口語表現では、does が do に統一される傾向があることは良く知られている。この場合より、さらにスピーチ・レベルが低くなるが、この短編では、be 動詞がすべての人称で is になる傾向もあり、単純化語法<sup>6)</sup>の一端が見られる。次の発話は Grogan 軍曹が Bobby に語った言葉である。

- (14) "I'll just call ya Bobby. I always call the men by their first names. And they all call me mother. Just like they was at home." (22)

### 1.1.8. ain't

周知のように、ain't は典型的な現代のアメリカ口語表現のひとつであり、are not, is not, am not の代わりとしてしばしば用いられている。さらに、ain't が have not, has not の代わりに使用されると、俗語あるいは方言的となり、スピーチ・レベルはずっと低くなる。<sup>7)</sup>また ain't が got と結び付いて用いられることも多く、haven't got のアメリカ版を形成している。<sup>8)</sup>

- (15) "*Listen, Pettit!*" boomed the sarge. "I ain't runnin' no fifth grade. You're in the Army, dumb guy. You're supposed t'know ya ain't got two left shoulders and that port arms ain't present arms. Wutsa matter with ya? Ain'tcha got no *brains*?" (22)

### 1.1.9. 省略語法

この短編では、t'know = to know (22) How do (you do) Mrs. Pettit? (22) (Do you) Think (that) there's any hope for our boy, sergeant? (22) Oh, don't be (in) that way. (22) などの省略の他に、しばしば見られる次のような例がある。主語となる節は do を伴う接触節が普通である。

- (16) All he does is (to) walk around and look important. (22)

## 2. "Personal Notes on an Infantryman" について

この短編も *Collier's* に載せられた、結末にオチの付いた a short short story である。歩兵部隊の中隊事務室で働く「わたし」は Lawlor という軍需工場の技師長をしている40歳代の男が入隊を志願してくるのに対応する。Lawlor の2人の子供も兵士で、1人は陸軍に在籍し、もう一人は海軍に入隊して、Pearl Harbor で片腕を失っている。「わたし」は Lawlor の年齢や家庭環境などを考えて、彼に入隊を思い止まるように説得するが、彼は自分の意志を曲げず、「わたし」も仕方なく彼に徴兵局事務室の場所を教えてやる。その後すぐに Lawlor の妻から「わたし」に、夫の入隊を心配しての電話があったが、健康診断できっと不合格になるだろうと慰めて電話を切る。ところが、Lawlor は何の問題もなく入隊を許可され、基礎訓練も優秀な成績で終了し、第1大隊のF中隊に入った。Lawlor は海外で戦闘に参加する気持ちが強く、その選に漏れた時

は、指揮官でない「わたし」にまで文句を言いやって来る。やがて彼は第2大隊のL中隊に転属になり、伍長から軍曹へ進み、海外派遣が実現する。彼の部隊が外地に上陸した後、「わたし」は Lawlor の妻を慰めるために、彼女に電話をする。その会話で読者は Lawlor と彼の妻がそれぞれ「わたし」の父母であること、Lawlor を船まで見送りに行った片腕を失っている海軍少尉 Pete が「わたし」の弟であることを知るのである。

## 2.1. “Personal Notes on an Infantryman” に見られる口語表現について

登場人物はすべて軍隊に関係しているが、スピーチ・レベルはそれほど低くない。

### 2.1.1. 軽蔑語法及び誇張表現

この短編では *The Catcher in the Rye* (1951) の中で、Holden Caulfield が最も嫌悪するものを表す時に用いた “phony” が地の文で1回使用されているだけである。

(17) And, in the first place, the allusion was labored and phony. I thought of a few other phrases, but they were all on the long-haired side, too. (96)

### 2.1.2. 造語的表現

Salinger がしばしば用いる、ハイフンで単語を結びつけて、簡潔な表現を生み出すやり方が1例見られる。(18)の下線部は「それを名前で呼ぶような(局面)」が原義であろう。

(18) I kept an eye on Lawlor all through his basic training. There wasn't any one call-it-by-a-name phase of Army life that knocked him out or even down. (96)

(わたしはローラーの基礎訓練の間、ずっと彼を注意深く監視していた。軍隊生活のどんなことにも、かれはけっしてノックアウトされたり、叩きのめされたりさえしなかった。)

### 2.1.3. 強意表現

この短編では、強意語 damn が変形した婉曲語 darn(ed) が2例見られ、それぞれ形容詞 good を修飾している。

(19) He [=Lawlor] was a darned good soldier, and I wanted to see him get on the ball. (96)

上の(19)の文に見られるアメリカ口語表現 “on the ball” は通例 be 動詞や get の後で用いられ、“paying attention and doing things well”<sup>9)</sup> の意を表す。

(20) After his basic, Lawlor was transferred to “F” Company of the First Battalion, commanded by George Eddy, a darn' good man. (96)

### 2.1.4. That's what ... 構文

この表現は一種の強調表現であり、..., that's all. の類似構文がよく知られている。<sup>10)</sup> What を用いた表現では、“That's what I mean.”, “That's what I'd like to do.”, “That's what I'll do.”などがよく使用されるが、この短編では次の例が見られるだけである。

(21) ... to which their wives reply: “That's nice, dear — will you *please* use the ash tray? That's what it's for.” (96)(彼らの妻は(それに対して)「まあ、それはいいことだわ。ところで、その灰皿を使ってくださらないかしら。それはそのためにあるんだから。」などと返答する。)

### 2.1.5. Repetition について

繰り返しは人の注意を呼び起こし、通例、発話者や語り手の強調の気持ちが加えられる。次の

例は Lawlor がいろいろな軍務をやすやすとこなす様子を語り手が力を込めて述べている状況である。

(22) Nor did he have trouble learning to march, or learning to make up his bunk properly, or learning to sweep out his barrack. (96)

次の4例は強調のために、really, at all, I knew などの語や句が付け加えられたり、文の一部がイタリック体になっているのがわかる。

(23) "... He looked good. He really looked good, Ma." (96)

(24) He didn't look bad. He didn't look bad at all. (96)

(25) But I could make her happy. I knew that I could make her happy. (96)

(26) "I want action," he said. "Can't you understand that? I want action." (96)

### 2.1.6. 省略語法

この短編では、省略語法は多くはないが、“a man (of) your age”, “Why (do you) tell me about it?” などの他に、次の2例が見られる。

(27) I had to avoid his eyes. I don't know quite why. He stood up straight again. (96)

(27) の2つ目の文の why の後には当然、前の文 I had to avoid his eyes. が省略されている。

(28) If he wanted to join the Army and was mentally, physically, and morally fit — then there wasn't anything the recruiting officer could do either, except (to) swear him in. (96)

(28) の文で、except より前に do が用いられた場合、except の後の to は省略されるのが普通である。

## 3. “Soft-Boiled Sergeant” について

主人公は Philly Burns といい、結婚して12年になる妻 Juanita に自分が新兵として軍隊にいた時に、世話になった軍曹 Burke の話をする。Philly は第1次大戦終了後、4年ほど経った頃、実際は16歳なのに、18歳だと偽って軍隊に入った。入隊のその日に、彼は当時まだ25か26歳だった醜い顔の2等軍曹 Burke に出会う。Burke は Philly が何もわからない軍隊の中で、さみしく泣いていたりすると、彼を慰めてくれる優しい人であると同時に、勇敢な戦士でもあり、多くの勲章をもらっていた。ある日、Burke はそれらの勲章をすべて、Philly の下着に付けることを許し、それらを付けたまま、彼をレストランや映画館に連れて行ってくれる。その映画館で Burke は見覚えのある赤毛の女性がある男性と並んで腰かけているのを見かけるが、Burke はその女性に自分の顔の醜さのために、振られていたのであった。本当に勇気のある者は映画に登場する主人公のように美男子ではないのだと Philly は彼に同情し、大人の世界の不合理性を垣間見る。

まもなく、Burke が曹長になった日、すべての勲章を返しに彼のところにいった時、Philly は自分が航空隊に転属になったことを知る。それ以来、Philly は Burke に2度と会うことはなくなるが、しばらくして、Philly は Frankie Miklos という友人からの手紙で Burke も航空隊に転属になっており、Pearl Harbor で戦死したことを知る。その手紙によると、Frankie と Burke

ともう1人の男がやっとのことで防空壕に着いた時、さらに3人の男がそこに駆け込んで来て、3人の新兵が食堂の冷蔵庫に隠れていることを告げる。それを聞いて、Burke は爆風でドアが閉ってしまうと、3人の新兵は冷蔵庫の中で窒息することを見抜いて、その場にいる連中の反対を押し切って、救出に出かける。彼は3人を無事に救出するが、防空壕に戻る途中で、一斉射撃の銃弾を4発受けて、命を落してしまうのである。Burke のことを悲しんでくれる女性もなく、国が行う盛大な葬儀もなく、孤独な状態で亡くなった Burke に対して、Philly の妻だけが泣き悲しみ、彼の死を悼むことになる。

### 3. 1. “Soft-Boiled Sergeant” に見られる口語表現について

この短編では、主人公 Philly が軍隊に入った時の上司である Burke について1人称で語るという手法が用いられており、口語表現は地の文の中での Philly の説明や Burke と Philly の対話文の中に多く見られる。

#### 3. 1. 1. 2 重否定

この短編では、全編に渡って31例の2重否定が見られる。そのうち会話文には、4例が現れるだけで、他は地の文で用いられ、Philly の説明文の特徴を表している。次のように3重否定も3例見られるが、1つの否定を強調したものであることは2重否定の場合と同じである。

(29) Don't never marry no ordinary dame (, bud) (18, 85)

(30) He died all by himself, and he didn't have no messages to give to no girl or nobody, and there wasn't nobody throwing a big classy funeral for him here in the States, and no hot-shot bugler blew taps for him. (85)

2重否定の組み合わせは次のようになっているので、参考のために挙げておく。

don't と no (4例)	ain't と no (4例)	didn't と nothing (3例)
don't と never (2例)	ain't と nothing (2例)	didn't と no (2例)
don't と none (2例)		didn't と none (1例)
don't と nobody (1例)		
don't と nothing (1例)		
wasn't と nobody (1例)	never と no (2例)	couldn't と never (1例)
was not と nobody (1例)	not と nothing (1例)	is never と no (1例)
	none と none (1例)	
	without と no (1例)	

上の表の2重否定の例も少し挙げておこう。

(31) And none of them tough birds razzed me none. (85)

(32) Burke says, “He’s all right. Only I don't like no funny-looking little guys always getting chased by big guys. Never getting no girl, like. For keeps, like.” (85)

(33) You couldn't never tell what he was thinking about. (84)

(34) ... Frankie said the guys without no big guns was running and zigzagging for any kind of a halfways decent shelter. (85)

### 3.1.2.2 重助動詞

一般に, had ought, might could, might not can などの2重助動詞は現代英語では, 誤りとされているが, この用法は古用法のなごりである。たとえば had ought の 'ought' は動詞 owe の過去分詞であり, might can の 'can' も be able to の意の動詞であったと言われている。<sup>11)</sup> この短編では次の2例が見られる。

(35) ... they had a real serious misunderstanding about what dress she should ought to wear to the college dance. (18)

(36) ... — you don't call him nothing, like as if you don't feel you should ought to get too clubby with him. (84) (あまりなれなれしくすると悪いとでも思ってるみたいに, 人は彼のことを呼びかけたりなんかしないんだ。)

### 3.1.3.2 重主語

これも古い用法であるが, 名詞主語のコンマの直後に, 不要な代名詞主語を追加して用いるものである。<sup>12)</sup> 主語を強調するために, 代名詞を繰り返した余剰表現となっている。この短編では, Juanita, she ... が7例, Burke, he ... が11例, Frankie, he ... が1例見られる。

(37) Juanita, she eats that stuff up. (18)

(38) Burke, he had bushy black hair that stood up like steel wool, like, on his head. (82)

(39) Frankie, he was at Pearl Harbor. (85)

### 3.1.4. this [these] here, that [them] there

この表現は指示代名詞 [形容詞] の this, that, these, them (=those) が直後に不要な here, there を伴って使用されている一種の強意表現である。<sup>13)</sup> This girl here は普通の表現であるが, これを this here girl にすると非標準となる。ところが this here が名詞の前で頻繁に使用されると, やがて複合語的な性格を持ち, this here が名詞の修飾語としてではなく, 独立して this の意味で用いられるようになる。<sup>14)</sup>

(40) Frankie seen Burke put his own number up, and this here is what Frankie wrote me: .... (85)

(41) Juanita, she's always dragging me to a million movies, and we see these here shows all about war and stuff. (18)

(42) I wisht I'd of told him that he was way better than that there redhead that he knowed first. (85)

(43) "I ain't hungry," Burke says. Then he says, "I keep thinking about this girl."  
"What girl?" I says.

"This here girl I know," Burke says. (84)

上の例(43)の最初の this girl は "a girl" の意味で, this は冠詞的な用法として使用され「自分の話の中に相手の気持ちを誘い込むような効果」<sup>15)</sup>を持っている。次の例(44)の this は両方とも定冠詞 "the" の働きをしている。

(44) He wanted to tell me about this fella with this crazy voice — a master, Frankie said, with nine hash marks. (85)

### 3.1.5. those の意の them

アメリカの口語表現では, 指示形容詞 those の代りに them が用いられる場合がある。この語

法はエリザベス朝時代の口語法を受け継ぎ、アイルランド英語や黒人英語にも見られ、この短編でも多用されている。<sup>16)</sup>

all them war movies ( 18 ) / them funny, slopy-like, peewee shoulders ( 82 ) / them goo-goo-googly eyes ( 82 ) / them boys ( 82 ) 2 例 / in them days ( 82 , 85 ) 3 例 / untie them ends ( 84 ) / them medals ( 84 , 85 ) 6 例 / them kind of girls ( 85 ) / them tough birds ( 85 ) / them guys ( 85 ) 2 例 / them buck privates ( 85 ) / them kids ( 85 ) / them refrigerator doors ( 85 )

### 3 . 1 . 6 . nice and ...

この表現は形容詞や副詞を強調し、「とても [ 非常に ] ...」を意味する限定的修飾句であり、その他に good and ... や rare and ... などが知られているが、もともとはイギリス北部方言の特徴であったと言われている。<sup>17)</sup> またこの語法は Shakespeare の作品に見られるように、古くからあり、アイルランド英語にも多いことが報告されている。<sup>18)</sup>

( 45 ) Or the guy that's croaking nice and slow has got plenty of time to hand over the papers he captured off the enemy general or .... ( 18 )

### 3 . 1 . 7 . 目的格主語

単純化語法の 1 つとして、目的格が主格に用いられることがある。<sup>19)</sup> この短編では、特に and で結ばれた複主語 ( compound subject ) を使用した例が 3 例見られる。

( 46 ) Then me and Burke sat down somewheres. ( 84 )

( 47 ) Then me and Burke walked back to camp. ( 85 )

( 48 ) Frankie said that him and Burke was in the shelter for about ten minutes, then three other guys run in. ( 85 )

上の ( 48 ) では、him and Burke の後に were ではなく、was が用いられていることに注意したい。アメリカ口語英語の特徴の一端が現れている。

### 3 . 1 . 8 . 動詞変化の単純化

アメリカ南部の口語英語では、教養ある人の間でも、三人称単数主語の後に doesn't ではなく、don't が普通に使用されることがあるのはよく知られている。

( 49 ) He was drawing the girl's hair. He just let his medals lay there.

I started to take off, but Burke calls me back, "Hey, Mac." He don't stop drawing though. ( 85 )

( 50 ) You see a lot of real handsome guys always getting shot pretty neat, right where it don't spoil their looks none, and .... ( 18 )

( 51 ) When I first come in the Army, I hadn't eat [ =eaten ] in three days, and where I been sleeping — well, that don't matter. ( 82 )

次の例は相槌として用いられたものである。

( 52 ) ..., so I just watched him draw the pitcher of the girl.

"That sure looks like her," I says.

"Yeah, don't it?" says Burke. Then he says, "Good night, Mac." ( 85 )

上の ( 49 ) ~ ( 52 ) の例よりスピーチ・レベルはかなり下がるが、be 動詞の使用で、すべての人称に is が用いられる傾向もある。この短編では、they was ... ( 7 例 ), you was ... ( 4 例 ), we was ... ( 2 例 ) が見られる。

(53) It was Capt. Dickie Pennington's old company during the war, and they was all regulars, and they wasn't busted up after the war, and .... (82)

(54) I didn't even know you was supposed to call him sergeant. (84)

(55) ..., and when we was walking down the aisle Burke said "Hello" to somebody. (84)

次のように複数名詞が主語になることもある。

(56) Them boys was nearly all quiet tough. (82)

(57) Then, when all Burke's medals was on my chest, I sat up a little off my bunk, and .... (84)

アメリカ口語英語では、単純化語法は ain't にも見られ、この短編では、have [ has ] not, is [ are ] not, am not の代りをしている。

(58) You ain't [=haven't] been married to me for twelve years and .... (18)

(59) The chow ain't [=isn't] bad and there ain't [=isn't] nothing wrong with the bunks. (82)

(60) ..., or if he ain't [=hasn't] heard from his girl lately, .... (82)

(61) "I ain't [=am not] hungry," Burke says. Then he says, "I keep thinking about this girl." (84)

(62) I says to him, "You ain't [=aren't] eating nothing." (84)

スピーチ・レベルの低い発話では、過去及び過去分詞の変化を規則動詞の変化形 -ed に統一して用いる傾向もよく見られる。この短編では、knowed が13例現れている。

(63) Burke, he really knowed how to do big things. (84)

(64) I've knowed lots of Handsome Harrys that wasn't so bad when the chips was down, but .... (82)

(65) I met more good guys in the Army than I ever knowed when I was a civilian. (82)

また不規則動詞の過去分詞を過去及び過去分詞の両方に用いることも多い。<sup>20)</sup> この短編では、seen 13例、done 1例、been 1例が見られる。

(66) "You ever [=Have you ever] seen Charlie Chaplin?" Burke says. (84)

(67) And I seen [=saw] big things in the Army. I been [=have been] married twelve years now, and .... (82)

(68) First off, maybe you wouldn't think what Burke done [=did or has done] for me was the real big stuff. (82)

過去形が過去分詞形に転用された例も2例ある。

(69) "... The fella in that little house said it wouldn't be wrote [=written] out for a couple days yet." (84)

(70) Then he went in the orderly room and come out in about two minutes with my name wrote [=written] out on a pass. (84)

さらに、現在形を過去形の代りに使用する例も4例見られる。

(71) "Sure," I says. "I know this one. I knowed a guy that had this one. A cop in Seattle. He give [=gave] me a handout."

Then I give [=gave] Burke's whole bunch of medals the once-over. I seen most of them on guys somewheres. ( 84 )

3 . 1 . 9 . I says

直接話法の伝達部で、通例 I said となる代りに、口語や俗語の話しことばの中で says I または I says が用いられることがある。この語法は、「語り手が回想する自分を客観化して、俺は... と言ってやったんだよ」<sup>21)</sup> という意味を表す。「1人称主語の動詞に -s を付ける語法それ自体は英語に古くからあるものであるが、文献に現れるのは17世紀も末期になってからである。」<sup>22)</sup> と言われている。この短編では、9例見られる。

( 72 ) "I wasn't crying," I says. ( 85 )

( 73 ) I says to him, "You ain't eating nothing." ( 84 )

上の ( 72 ), ( 73 ) の例とは機能は異なるが、次の2例も文脈から言って、goes は went の意味であろう。

( 74 ) That didn't interest me none, so I goes [=went] on feeding my face. ( 84 )

( 75 ) Burke, he give [=gave] me some last advice just as I goes [=went] out the door. ( 85 ) [ out の後に of が省略されている。 ]

3 . 1 . 10 . theirselves

アメリカの俗語や方言では themselves の代りに theirselves, theyselves, theirse'fs, theselves, deyse'f, theirself などが用いられる。<sup>23)</sup> この短編では、次の2例が見られる。

( 76 ) ..., and those big, tough guys kept walking up and down the barracks floor, swearing and talking to theirselves easy like. ( 82 )

( 77 ) He seen three buck privates that just reported to the mess hall for K.P. lock theirselves in the big mess-hall refrigerator, thinking they was safe there. ( 85 )

3 . 1 . 11 . kind of, kinda; sort of

この短編では、sort of ( 4 例 ), kind of ( 3 例 ), kinda ( 1 例 ) が somewhat, rather の意味で形容詞を、また as it were, in a way の意味で動詞を修飾するのに使用されたり、さらに句や文を修飾したり、独立しても用いられている。

( 78 ) I wanted Burke to feel sort of happy like too. ( 84 )

( 79 ) ..., and I bet there wasn't one of us that ever kinda tipped him off about it. ( 85 )

( 80 ) So I'm sorry I told her about Burke, sort of. ( 18 )

( 81 ) "Kind of," I says. "How'd you know?" ( 85 )

上の ( 78 ), ( 79 ) では、余剰的な副詞 like, ever を伴っていることにも注意したい。全体として発話を滑らかにするのに寄与している。

3 . 1 . 12 . wisht

特にアメリカ南部方言では、歯茎継続音で終る wish, once, twice, since などの語は後に閉鎖音 /t/ を付加して、/wiʃt/, /wʌnst/, /twaist/, /sinst/ のように発音され、wisht, oncet [ onct, wunst ] twict, sincet などと綴られる。<sup>24)</sup> この短編では、wisht が3例見られるが、この綴りはしばしば "wish that" の短縮形と考えられている。<sup>25)</sup>

( 82 ) But I told her about Burke just before she left. I wisht I hadn't of [=have] ( 18 )

( 83 ) ..., and I wisht I had a buck for every time I told my wife, Juanita, about something big I seen .... ( 82 )

(84) I wisht I'd of told him that he was way better than that there redhead that he knowed first. (85) [ Cf. I always have kind of wished that I would of knowed enough that night to say something nice like to Burke. (85) ]

前置詞の類例がもう1例見られる。

(85) So I pinned them on — straight acrost [=across] my chest, and some of them right underneath. (84)

### 3 . 1 . 13 . Eye Dialect

この短編に特有な視覚方言は少ないが、いくつか述べておこう。

- a) 前置詞 of の発音/ə/から、綴り字を a にしたもの ( 1 例 ): a coupla [=a couple of] ordinary dames (85)
- b) 助動詞 have の発音/əv/から、綴り字を of にしたもの ( 6 例 ): ..., but he wasn't the kind of a guy that would of [=have] ever looked like a young guy. (82) / And even if I would of [=have] knowed how, Burke wasn't the kind of a guy you'd write to. (85)
- c) to 不定詞の to の発音/tə/から綴り字を ta にしたもの ( 1 例 ): ... I gotta [= (have) got to] go back a long ways, .... (18)  
また to の弱形には gonna のように、t の発音が前行の鼻音と同化することもよく知られている : If I'm gonna [=going to] tell *you* about Burke, .... (18) / "... It's gonna [=going to] be big stuff." (85)
- d) 末尾弱音節の -ow, -o の発音/-ə/から綴り字を -er, -a にしたもの ( 2 例 ): fella [=fellow] (84, 85)
- e) picture ( 絵 ; 映画 ) の中間発音/k/が脱落し、pitcher と綴られたもの ( 7 例 ): ..., and he was drawing a pitcher of a girl with red hair. (85) / "I heard of him," I says. "He's in movie pitchers." (84)
- f) toe/tou/の語頭音の/t/がその前の語 fantastic の語尾に統合されたもの ( 1 例 ): You can buy the ordinary dame a few beers, maybe trip the light fantastict [=fantastic toe] with them, like that,.... (18) [ toe の発音に見られる/-ou/は脱落している。 ]

### 3 . 1 . 14 . I mean

この短編では、地の文の文頭で3例使用されており、後に続く文の真实性や重要性を強調する働きをしている。

(86) I mean staffs except Burke. (82) (パークさん以外の曹長ってことだけだね。)

(87) I mean the best ones. (84)

(88) I mean I didn't write much in them days. (85)

### 3 . 1 . 15 . 接続詞 the way

この用法は in the way の in の省略によって、the way が副詞化し、それがさらに接続詞化して多くの機能を発展させたものである。<sup>26)</sup> 次の2例では the way は how や as に置き換えられるだろう。

(89) ..., looking like they was tough, without trying — the way [=how] real tough guys look. (82)

(90) But, thinking it over, most of the time I didn't call him nothing; the way [=as] it is when you think a guy's really hot — .... (84)

3 . 1 . 16 . 副詞 way

アメリカの口語英語では、「非常に、すっかり、まったく」などの意味で way がしばしば用いられるが、次の例では、too をさらに強めていることがわかる。同じ機能を持った語句として、only too, far too, much too, quite too などがある。<sup>27)</sup>

(91) ..., and his head was way too big for them [=peewee shoulders] (82)

3 . 1 . 17 . 名詞 way

肯定平叙文では、far の代りに a long way が用いられるが、次はアメリカ口語英語として、a long ways が使用された例である。

(92) If I'm gonna tell you about Burke, I gotta go back a long ways, explain a couple of things, like. (18)

3 . 1 . 18 . 注意の喚起法

間投詞にはいろいろあるが、この短編では、You see. の意味で see が相手に同意を求める表現として1例見られる。

(93) I'm in the Army, see. (18)

また名詞 Mac が、特に男性への呼びかけとして、Burke から Philly へ口癖のように6回用いられている。

(94) Burke says, "They don't look so good on me. Good night, Mac." Then he goes inside. (85)

(95) "Okay, Mac," Burke says, and he picks up his crayon again. (85)

3 . 1 . 19 . 副詞 sure

副詞 sure が文修飾として「確かに、本当に」の意で3回、また間投詞的に「いいとも、もちろん」の意で3回使用されている。

(96) I sure was a kid. (85)

(97) "That sure looks like her," I says. (85)

(98) "Yeah," I says. "Could I?"

"Sure," says Burke. "You can keep 'em [=those medals] if you want 'em." (85)

3 . 1 . 20 . 副詞 like

通例副詞 like は文頭や文尾に置かれて、その後や前の語句 [ 陳述 ] の意味を和らげて「どうも...みたいだね、...かもしれないね」などのように、断言を避ける働きをする。時に、文中に置かれて、「まあ、その」などのつなぎの言葉として、ためらいの気持ちを暗示したりすることもある。この短編では、このような役割を果たすために、27例の like が見られる。

(99) Burke, he was good when he was healthy like. (82)

(100) Burke said that was no safe place at all, that if the bombs didn't make no direct hit, the vibration like would kill them buck privates anyhow, .... (85)

次のように、ハイフンが省略されて使用される場合もある。

(101) Then, sudden like, he took something out of the pocket of his fancy store bathrobe and chucked it on my bunk. (82)(Cf. ...when the guy told that, Burke sudden-like got up and started slapping the guy's face around thirty times, .... (85))

### 3.1.21. 接尾辞 -like

この用法は形容詞や名詞の語尾に接尾辞 -like を付加して、前項の 3.1.20. と同じように、「いわば、どうも、なんだか」などの意味を発話に添える便利な機能を持っている。

(102) You never knowed what kind of sad-like thoughts Burke was thinking while he walked, but .... (85)

(103) They seemed to be hunting special-like for guys that was zigzagging down the streets for shelter. (85)

### 3.1.22. 接続詞 like

口語表現では、接続詞 like が as や as if の代りに使用されることはよく知られている。

(104) ..., not knowing nobody, scared of all the big guys that walked up the barracks floor on their way to shave, looking like they was tough, .... (82)

(105) It [=a hunk of medals] chinked like it had dough in it, whatever it was. (82)

次は副詞 like の後にさらに as if や when を伴った例である。

(106) If she sees a dead rat laying in the road, she starts smacking you with her fists, like as if it was you that run over it. (18)

(107) I went over to him and laid his medals down on the desk; they was all pinned together and wrapped in a handkerchief, like when he chucked them on my bunk. (85)

### 3.1.23. 造語的表現

Salinger の作品にしばしば見られるハイフンを利用した造語的表現がこの短編では 2 例用いられている。この手法は引き締まった、簡潔な表現を生み出すのに効果を発揮している。

(108) You take a real ugly guy, with a two-toned voice, with a head that's too big for their shoulders, with them goo-goo-googly eyes — .... (82) (2 例)

上の (108) では Burke がぎょろ目の (googly-eyed) 人物であることに言及しているが、この表現は米国の漫画家 Billy DeBeck (1890 - 1942) が描いた人気キャラクター Barney Google の目の特徴から Salinger がここで利用したものである。

### 3.1.24. or something

この短編では、標題の余剰表現は 1 例見られるだけであまり使用されておらず、他に and stuff と and の省略された stuff like that が 1 例ずつ散見されるだけである。

(109) ... Burke sudden-like got up and started slapping the guy's face ..., asking him if he was nuts or something, leaving them guys in that there refrigerator. (85)

(110) ..., and we see these here shows all about war and stuff. (18)

(111) You hear guys that come in on the draft kick about the Army, say how they wish they was out of it and back home, eating good chow again, sleeping in good bunks again — stuff like that. (82)

### 3.1.25. 誇張表現

この短編では、数字を用いた誇張表現が 3 例見られる。

(112) Juanita, she went home to San Antonio yesterday to show our kid's hives to her old lady — better than having the old lady jump in on us with eighty-five suitcases. (18)

(113) ..., Burke sudden-like got up and started slapping the guy's face around thirty times, .... (85)

副詞 off を伴った誇張表現も 1 例見られるので次に示す。この表現は knock one's head off などのイディオムに相通じるものがある。数字を使用した誇張表現も後続していることに注意したい。

(114) Because Burke come [=came] over to where I was sitting on my bunk, bawling my head off — but quiet like — and he stood over me for around twenty minutes, .... (82)

### 3 . 1 . 26 . 強意表現

Salinger が常用する強意語 hell がこの短編では 1 回だけ使用されている。次の例は頻繁に見られる get out of there を強調した表現である。

(115) ..., but he got gunned by a Zero on the way, and when he finally got them refrigerator doors open and told them kids to get the hell out of there, he give up for good. (85)

### 3 . 1 . 27 . 動詞・副詞・前置詞の結合

アメリカの口語英語には 3 語から構成される、いわゆる二重結合 (double combination) が多いことが知られている。「つかむ」の意味で catch up with が使用されるのもアメリカ口語英語の特徴を表している。<sup>28)</sup> この短編では、次の 3 例がみられる。

(116) You hear guys that come in on the draft kick about the Army, .... (18)

(117) Juanita, she went home to San Antonio yesterday to show our kid's hives to her old lady — better than having the old lady jump in on us with eighty-five suitcases. (18)

(118) All these years I just never met up with him [=Burke] (85)

### 3 . 1 . 28 . so's = so as

標題の so's は発音時の頭部消失によって生じたもので、口語や俗語で使用され、so that に置き換えることができる。

(119) I jiggled around in my seat the whole show, so's people would hear them medals clanking. Burke, he didn't stay for the whole show. (84) [最初の文には、seat の後に前置詞 for の省略も見られる。]

### 3 . 1 . 29 . all + 接触節 + 補語

Salinger の作品には、「all + do を含む接触節 + be + 不定詞」や「all + 接触節 + be + 補語」の構文がよく見られるが、次の例では、補語に名詞の代りに文が用いられて、「わたし」の思考内容が詳しく述べられている点に注目したい。

(120) ..., but all I was thinking was, Will he want these here medals back right away? (85)

### 3 . 1 . 30 . 省略語法

すでに 3 . 1 . 11 . で扱った kinda [=kind of] や 3 . 1 . 13 . で扱った a coupla [=a couple of] の他に、この短編では、前置詞の省略された a couple (of) days (84) や (for) the whole show (84) も見られる。またしばしば使用される settin' [=sitting] (85) cryin' [=crying] (85) 'em [=them] (85) と共に、標準英語で an となるべきところを a で済ましてしまい、an と a

の使い分けをしない例も散見される。

(121) ..., and he was a ugly guy too. (82)

(122) It was just like I got a order to do it. (84)

最後に、その他の省略例をいくつか挙げておこう。

(123) Then we walked into town, me with Burke's medals chiming and clanking around under my blouse, me feeling like a hot-shot, happy like. (Do you) Know what I mean? (84)[地の文]

(124) “(Do) You know what any of them [=medals] are?” (84)[Burkeの言葉]

(125) “(Are) They all yours?” I says. (84)[Phillyの言葉]

(126) Burke, he's dead now. His number (has) come up there at Pearl Harbor. (85)  
[地の文]

(127) When I first come in the Army, I hadn't eat [=eaten] in three days, and where I (have) been sleeping — well, that don't matter. (82)[地の文]

#### 4. “Last Day of the Last Furlough” について

主人公は技術軍曹 John F. Gladwaller, Jr. (24歳)で、妹思いの、通例 Babe と呼ばれている青年である。今は海外に派遣される前の最後の休暇をニューヨーク州 Valdosta の実家で過している。母の依頼で、3時に学校の終る10歳の妹 Mattie を轎で迎えに行く。Babe と Mattie が寝すべりを楽しんだ後、帰宅すると、Babe が駅に迎えに行くことを約束していた親友の伍長 Vincent Caulfield (29歳)が軍服姿ですでに来ていた。Vincent は入隊する前は作家であり、さらにラジオ番組を3つ担当し、そのうちの1つ「こんにちは、Lydia Moore です」は Babe の母や Mattie もよく知っていたので、彼女たちは彼に親近感を覚える。Vincent には Mattie と同じ年頃の妹がおり、彼は Mattie と打ち解けて仲良くなる。また Vincent には弟の Holden (20歳)がいて、戦地で行方不明になっており、その安否を彼は気遣っている。Vincent は Babe と話をしながら、過去の自分を回想して、25歳になった時に、恋人 Helen と結婚すれば良かったこと、そしてその Helen はすでに別の男性と結婚し、子供もいることなどを Babe に伝える。夕食後、Babe と Vincent は Babe の父で生物学の教授でもある Gladwaller 氏と戦争について長話を始める。Babe の言葉には暴力を軽蔑し、平和を求める気持ちが満ち溢れている。

その後、ベッドに入った Babe はなかなか寝つかれずに、暗闇の中で物思いにふけていた。Vincent は Jackie Benson と結婚することをしきりに勧めてくれるが、Babe は7年前から付き合い合っている Frances のことが頭から離れないのである。気分を落ち着かせるために、別室で寝ている Mattie を起こし、お別れの言葉を掛けるが、彼女は Babe が戦争に行くことをすでに感知していた。Babe は自分の部屋に戻って、タバコに火を付け、愛する家族を守るために戦争に行くことを自分に納得させている時に、母がナイトガウンをまとって彼のところにやって来る。母も Babe が海外に派遣させられることを見抜いており、無事に彼が帰って来ることを期待を込めて祈るのである。

##### 4.1. “Last day of the Last Furlough” に見られる口語表現について

この短編の中で、口語英語の特徴を表していると考えられる表現形式について、その顕著なも

のを探ってみよう。主に20代の戦友仲間である Babe と Vincent の言葉の中にその形式が見られる。

#### 4. 1. 1. to 不定詞の to の同化現象

口語英語によく見られる特徴の1つに弱形や音声消失があるが、この短編では、“gonna”, “wanna” が1例ずつ用いられている。

(128) “(I) Can’t wear the uniform,” Babe said, munching. “(I’m) Gonna [=going to] take the sled.” (26)

上の(128)では、親しい母との対話ということもあって、主語の“(I’m)”も省略されている。

(129) “... I’d say to him, ‘Are you okay, you moron? Do you wanna [=want to] go home? Do you need any dough?’ ...” (61)

上の(129)では、Vincent が弟の Holden のことを心配して彼に話しかけている場面であり、無遠慮な“you moron”のような軽蔑語がかえって親しみのこもった愛情表現になっている。

#### 4. 1. 2. 誓言・間投詞・強意表現

この短編では、自分の言葉の真実性を強調して、Mattie が “Honest (to God)” (本当に、誓って、間違いなく) を4回使用しているのが目立つ。スプリング通りで橇に乗ることが本当は怖いだけでなく、兄の Vincent に対してその気持ちを隠そうとして、強がって見せているところである。

(130) “You’re shaking,” Babe said, finally aware.

“No.”

“Yes! You’re shaking. You don’t have to go, Mattie.”

“No. I’m not. Honest.”

“Yes,” said Babe. “You are. You can get up. It’s all right. Get up, Mat.”

“I’m okay!” Mattie said. “Honest I am, Babe. Honest! Look!”

“No. Get up, honey.”

Mattie got up.

Babe stood up, too, and banged the snow free from the runners of the sled.

“I’ll go down Spring with you, Babe. Honest. I’ll go down Spring with you,” Mattie said anxiously. (27)

(131) では、Vincent の母はやや古くなった驚きを示す表現 “goodness gracious” を Vincent に対して使用している。24歳にもなった青年がいまさら橇すべりに興味を持つなんて、と驚いている母の様子を表している。

(131) “The sled?”

“Uh-huh.”

“Well, goodness gracious! A twenty-four-year-old boy.” (26)

間投詞 “Hiya” も Babe (3例), Holden (2例), Mattie (1例) によって用いられている。この表現は “How are you?” がなまって変化したもの<sup>29)</sup> とか, “Hi, you!” の縮まったもの<sup>30)</sup> と言われている。

(132) “C’mom upstairs,” Babe said, slapping him [=Vincent] on the back. “Hiya, mom! He said your cake was leaden.” (61)

間投詞 “Gee!” は 1 . 1 . 3 . ですすでに述べたように , Jesus の婉曲語で話者の驚きや強い興味を表す場合に使用される。

(133) She [=Mattie] ran over to him crazily in the knee-deep, virgin snow.

“Babe!” she said. “Gee!”

“Hiya, Mat. Hiya, kid,” Babe said low and easy. “I thought maybe you’d like to go for a ride.”

“Gee!”

“How was the book?” Babe asked. ...

“Gee! I didn’t know you were coming! Did mamma tell you what time I got out?”

“Yes. Get on the sled and I’ll give ya a ride.” (26)

「非常に、ずいぶん、ずっと」などのように程度を強調するために用いられる way が 1 例見られるので、次に挙げておく。この way は away の接頭辞 a- の消失によってできたもので、OED によれば、19世紀半ば以来使用されている。<sup>31)</sup>

(134) I’d drag my date through the joint, looking for him [=Holden] and I’d find him way in the back. (61)

4 . 1 . 3 . nope, yep, naaa

Nope/nóup/は口語英語で “no” の強調表現として用いられ、スピーチレベルも低い。同義語の異形としては、naw, nayo, neh-o, noi, nor, nu(h)r, nɑ(h), naah などが知られている。<sup>32)</sup>

(135) “You think I’m talking through my hat, Vincent?” Babe asked, rather shyly.

“Nope. But I think you ask too much of human nature.” (62)

Yep/jép/は nope に対応し、口語英語で “yes” の強調表現として用いられ、スピーチレベルも低い。また yep は yeah を短く発音したもので、最後の “-p” は閉じたままで破裂しない、と言われている。<sup>33)</sup>

Holden が間延びした発音で使用した “naaa” は通例の視覚方言では “naa” として用いられ、yeah に対応し、スピーチレベルも nope より高いと考えられている。<sup>34)</sup>

(136) “... And he’d [=Holden would] say, ‘Naaa [=No] Not me. Not me, Vince. Hiya, boy. Hiya. Who’s the baby?’ And I’d leave him there, but I’d worry about him ....” (61)

4 . 1 . 4 . 間投詞 boy

この語は通例、年齢に関係なく男性に対する呼びかけとして使用されると同時に、「おや、まったく、ほんとうに」などの意味を表す間投詞としても使われる。この短編では Babe と Vincent によって 1 例ずつ用いられており、boy の後に必ずコンマがある。

(137) “M’m’m,” said Babe unenthusiastically, with a mouthful of cake. He swallowed it and took another drink of milk — boy, it was cold. (26) [文頭の “M’m’m” は mamma, mama が普通]

(138) But Vincent had said it. He had said it not thirty minutes ago, in this very room.

“Boy, use your head,” he had said. (62)

4 . 1 . 5 . and all, and everything

話し手が言葉を断定的に言うのを避けて、聞き手の反論の余地を残すあいまい性をとどめた標題の余剰表現は、この短編では次の 2 例が見られるだけである。

(139) “About three o'clock, I think. Oh, Babe, please call for her! She'll get such a kick out of it. In your uniform and all.” (26)[ Vincent の母の言葉 ]

(140) Only the big, tough, dirty-words boys coasted down Spring. Bobby Earhardt was killed doing it last year, and his father picked him up and Mrs. Earhardt was crying and everything. (27)[ この例では and everything は強調のために使用されており、イヤハート夫人がさんざんに泣いたことを述べている。]

#### 4 . 1 . 6 . I mean

標題のこの表現は付け足し、念押しを意図して用いられることが多く、他の余剰表現や強調表現と共に起して、強調効果を高めることもしばしばある。

(141) “Not down Spring. I can't go down Spring, Babe. I promised daddy once. He'd get sore. I mean he'd get more hurt than sore.” (27)

(142) “Biology. ... How old was he [=Holden] Vincent?”  
“Twenty,” Vincent said.

“Nine years younger than you,” Babe calculated inanely. “Do your folks — I mean do your folks know you're going overseas next week?” (61)

(143) Babe said nothing for a minute. Then, “Did you have a good time — I mean till that letter came?” (62)

#### 4 . 1 . 7 . 造語的表現

この短編では、ハイフンによっていくつかの語を結び付けて新しい表現を造り出す手法を用いており、引き締まった簡潔な表現を生み出している。<sup>35)</sup>

(144) Late in October you could window-write, and now, before November was through, Valdosta, New York, was white — run-to-the-window white, take-a-deep-breath white, throw-your-books-in-the-hall-and-get-out-in-it white. (26)(10月も後半になると、窓が曇って文字が書けるようになる。そして11月が終る前にニューヨーク州ヴァルドスタの町は真っ白になった。つまり、窓のところへいってごらんよ、と言いたくなるような白さ、深呼吸をしてごらんよと言いたくなるような白さ、本を玄関に投げ出して外へ出ようよと言いたくなるような白さであった。)

#### 4 . 1 . 8 . 輕蔑語法

この短編では、人・物を低能・気違い・まぬけ扱いして moron, nut<sup>36)</sup>; crazy, dumb, dopey が用いられている。しかしこれらの語にはしばしば親しみが込められ、(145)の moron や (146)の nut には、弟 Holden に対する兄 Vincent の愛情の気持ちが含意されている。

(145) “... I'd say to him [=Holden] ‘Are you okay, you moron? Do you wanna go home? Do you need any dough?’ ...” (61)

(146) “..., but I'd worry about him because I remembered all the crazy, lost summer-times when the nut used to leave his trunks in a wet lump at the foot of the staircase instead of putting them on the line. ...” (61)

(147) *The more unrequited my love for her becomes, the longer I love her, the oftener I whip out my dumb heart like crazy X-ray pictures, ....* (62)

(148) “... If you room with some dopey girl at college, try to make her less dopey. ...” (62)

#### 4.1.9. 副詞句 kind of

標題の表現は「いくぶん、少し、...のようで」などの意で、表現を和らげるのに用いられるが、この短編では、発話の最初に1例だけ見られる。

(149) "... But my point, Mattie — if I have a point, Mattie — is this: kind of try to live up to the best that's in you. ..." (62)

#### 4.1.10. 2重主語

次の表現は3.1.3. で扱った Juanita, she ... の延長線上にある、主語を繰り返した余剰表現である。

(150) "If you've come to read the gas meter, you two, you've come to the wrong house. We don't use gas. ..." (61)

#### 4.1.11. 接続詞 the way

この用法はすでに3.1.15. で扱ったもので、次の例は“judging from the way”に置き換えられるアメリカ口語の慣用的表現である。

(151) "The way you say it, Mrs. Gladwaller, I'm sure she's as homely as sin," Vincent said. (62)[ as ... as sin は「非常に[とても、ひどく]...」の意を表す口語の強調表現である。]

#### 4.1.12. 副詞節を導く the day

次の例は、4.1.11. と類似した用法で、the day が接続詞的に使用されたものである。On the day when の省略表現と考えられる。

(152) Jackie answers my letters the day she gets them. (62)

#### 4.1.13. just about

標題の表現は「いくぶん、多少、なんとなく」の意味を表し、発話を穏やかにする働きを持つと共に、次の例に見られるように、強意的に「まさに、まったく」の意で用いられることも多い。

(153) "I never really knew anything about friendship before I was in the Army. Did you, Vince?"

"Not a thing. It's the best thing there is. Just about." (62)

#### 4.1.14. Repetition について

繰り返しは、すでに2.1.5. で扱ったように、発話者や語り手が通例物事を強調して述べたい場合に、しばしば用いられる。この短編でも頻繁にこの用法が見られる。

(154) But some of the time, some of the time, she's the most wonderful girl in the world, and .... (62)

(155) I've been this way for seven years, Vincent. There are things you don't know. There are things you don't know, brother. (62)

(156) "Yes. She's wonderful, Vince. The folks don't like her, but she's wonderful for me." (61)

次の例では“you men”から“you all”に言葉を変えて繰り返しながされている。

(157) "... I don't mean to be tiresome, but you men from the last war, you all agree that war is hell, but — I don't know — you all seem to think yourselves a little superior for having been participants in it. ..." (62)

1人の登場人物あるいは作者が3回あるいはそれ以上の繰り返しを使って自分の主張を強めている場合も見られる。

(158) Then she [=Babe's mother] sat down on the foot stool by his chair, watching her son's face, watching his thin, familiar hand pick up the fork — watching, watching, loving. (26)

(159) Babe thought, *This is for me. I'm happier than I've ever been in my life. This is better than my books, this is better than Frances, this is better and bigger than myself.* (27)

(160) But nobody stays a little girl or a little boy long — take me, for instance. All of a sudden little girls wear lipstick, all of a sudden little boys shave and smoke. ... All of a sudden you'll have to tip porters, .... (62)

(161) *This is my home. Babe thought. This is where I was a boy. This is where Mattie is growing up. This is where mother used to play the piano. This is where dad dubbed his tee shots. This is where Frances lives and brings me happiness in her way. But this is where Mattie is sleeping.* (64)

もちろん、2人の登場人物によって話が展開していく場合は、それぞれの発話の中で、繰り返しが見られる場合もある。

(162) “Mattie, don't say anything to mother,” he [=Babe] told her.

“Babe, don't you get hurt! Don't you get hurt!”

“No. I won't. Mattie. I won't.” Babe promised. “Mattie, listen. You mustn't tell mother. Maybe I'll have a chance to tell her at the train. But don't you tell her, Mat.”

“I won't. Babe! Don't you get hurt!”

“I won't, Mattie. I swear I won't. I'm lucky,” Babe said. (64) [この場面は *The Catcher in the Rye* の中の Holden と Phoebe の対話の場面と類似しているのがわかる。]

(163) “Not down Spring. I can't go down Spring, Babe. I promised daddy once. He'd get sore. I mean he'd get more hurt than sore.”

“It's all right, Mattie,” Babe said. “It's all right when you're with me. You can tell him you were with me.”

“Not down Spring. Not down Spring, Babe. How 'bout Randolph Avenue? Randolph is swell!”

“It's all right. I wouldn't kid you, Mattie. It's all right with me.” ...

“No, I'm not. Honest.”

“Yes,” said Babe. “You are. You can get up. It's all right. Get up, Mat.” (27)

#### 4 . 1 . 15 . 省略語法

すでにこの語法は 1 . 1 . 9 . , 2 . 1 . 6 . , 3 . 1 . 30 . で扱ったが、この短編でもいくつか用いられているので、少し観察しておこう。

a) 前置詞 of の省略

(164) Babe tossed it out (of) the window. (26)

(165) "I have a sister just (of) your age," Vincent told Mattie. (61)

b) 前置詞 in の省略

(166) It seems to me that men in Germany who were in the last one probably talked (in) the same way, or thought (in) the same way, and .... (62)

c) 主語 (+ 助動詞) の省略

(167) "(I) Can't wear the uniform," Babe said, munching. "(I'm) Gonna take the sled." (26)

(168) "Everywhere you looked," her husband repeated. "(We) Couldn't get rid of 'em [=cockroaches]" (62)

(169) Vincent reached for them [=cigarettes] "(Have you) Seen a lot of Frances?" he asked. (61)

(170) (I have) Been indulging in athletics. I went sledding with Mattie. No kidding. How was New York?" (61)

次の例では、動詞と目的語が省略されて、簡潔な表現となっている。

(171) "... We don't use gas. We burn the children for heat. (We) Always have (burnt them for heat) Good day." (61)

4 . 1 . 16 . that's all

この表現は一種の強調構文であり、口語英語では発話の終わりにコンマと共によく用いられるが、次の例では独立した文として追加されたものである。

(172) "... you'll worry about expensive clothes, meet girls for lunch, wonder why you can't find a guy who's right for you. And that's all as it should be. ..." (62)

(注)

- 1) 小林資忠「J. D. Salinger の初期の短編について(3)」(『愛媛大学教育学部紀要』, 第 II 部 人文・社会科学, 第35巻 第 2 号, 2003), pp 21 - 41 .
- 2) 小西友七『アメリカ英語の語法』(東京: 研究社, 1981), pp .152 - 153 .
- 3) Tony Thorne, *Dictionary of Contemporary Slang* (London: Bloomsbury Plc, 1997), pp .160 - 161 .
- 4) 藤井建三『アメリカの口語英語 庶民英語の研究』(東京: 研究社, 1991), p .188 .
- 5) 小西, 前掲書, p 41 .
- 6) 藤井, 前掲書, pp 268 - 269 .
- 7) 小西, 前掲書, p 325 .
- 8) 小西, 前掲書, p 231 .
- 9) Adam Makkai, M. T. Boatner and J. E. Gates, *A Dictionary of American Idioms* (Third Edition) (New York: Barron's Educational Series, Inc., 1995), p 289 .
- 10) 小林資忠「J. D. Salinger の初期の短編について(1)」(『愛媛大学教育学部紀要』, 第 II 部 人文・社会科学, 第30巻 第 2 号, 1998), p .74 .
- 11) 藤井, 前掲書, p 232 ./ 小西, 前掲書, p 43 .
- 12) 藤井, 前掲書, p 230 .
- 13) 藤井, 前掲書, p 230 .
- 14) 小西, 前掲書, p 305 .
- 15) 小西, 前掲書, p .199 .
- 16) 藤井, 前掲書, p 274 .

- 17) 藤井建三 『文学作品にみるアメリカ南部方言の語法』(東京:三修社,1984), p.156 .
- 18) 藤井, 『アメリカの口語英語』, p.59 .
- 19) 小西, 前掲書, pp.130 - 132 .
- 20) 小西, 前掲書, p.129 .
- 21) 藤井, 『文学作品にみるアメリカ南部方言の語法』, p.77 . /小西, 前掲書, pp.293 - 296 .
- 22) 藤井, 『文学作品にみるアメリカ南部方言の語法』, p.77 .
- 23) Harold Wentworth, *American Dialect Dictionary* (東京:名著普及会,1981), p.633 .
- 24) 藤井, 『文学作品にみるアメリカ南部方言の語法』, p.315 .
- 25) Harold Wentworth, 前掲書, p.712 .
- 26) 小西, 前掲書, pp.81 - 84 .
- 27) 藤井, 『アメリカの口語英語』, p.69 .
- 28) 小西, 前掲書, p.105 .
- 29) Cf. Patrick Hanks, *The New Oxford Dictionary of English* (Oxford: Oxford University Press, 1998), p.870 .
- 30) 藤井, 『アメリカの口語英語』, p.281 .
- 31) J. A. Simpson and E. S. C. Weiner, *The Oxford English Dictionary* (20 vols.)(Oxford: Oxford University Press, 1989<sup>2</sup>) s.v. way .
- 32) Frederic G. Cassidy and Joan Houston Hall, *Dictionary of American Regional English* (Volume III I-O)(Cambridge, Massachusetts: The Belknap Press of Harvard University Press, 1996), p.813 .
- 33) 藤井, 『アメリカの口語英語』, p.69 .
- 34) 小西, 前掲書, p.177 .
- 35) *The New Oxford Dictionary of English* の見出し語にもある “dirty word” がハイフンを付加されて, 形容詞として使用されている例もある: the big, tough, dirty-words boys (27)
- 36) 名詞 nut と関連する nutty と nuts を用いた例も挙げておこう。
  - a) “He has a kid brother in the Army who flunked out of a lot of schools. He talks about him a lot. Always pretending to pass him off as a nutty kid.” (26)
  - b) *I'll bet she's [=Mattie's] nuts about it*, Babe thought. (26)

(2003年5月22日受理)